

様式2

専門研修課程Ⅱ・更新研修(実務経験者)提出事例フェイスシート

記入方法

提出事例 領域	〇〇に関する事例	受講番号	受講者 氏名	
------------	----------	------	-----------	--

事例タイトル	この事例を端的に表すタイトルをつけてください。 例) 仕事をしながら母親の介護を献身的に行っている事例	☐ 継続事例	☐ 終了事例
--------	--	-------------------------------	-------------------------------

この事例を	〇〇〇に関する事例	として選定した理由について
別紙2「介護支援専門員研修の事例の提出について」の事例選定のポイントを確認の上、以下についてまとめてください。 ①連携（「状態に応じた多様なサービスの活用に関する事例」では利用）した理由（課題分析） ②連携（「状態に応じた多様なサービスの活用に関する事例」では利用）方法 ③工夫した点 ④苦勞した点		

どのような事例か。
簡潔に記載してください。

利用者名	イニシャル	年齢	数字のみ	性別	男 女	認定区分	
☐ 身体障害者手帳			等級			障害高齢者日常生活自立度	
☐ 精神障害者保健福祉手帳			等級			認知症高齢者日常生活自立度	
☐ 療育手帳			程度				
保険・年金・経済状況							

主訴	聴き取った主訴を書いてください。
----	------------------

生活歴	ご本人の生活歴について分かる範囲で記入してください。 〇〇市で出生し・以下エピソード等を記載
-----	--

現在の 生活状況		家族の状況・関係、ジェノグラム(手書きも可)

既往歴・現病歴	現病歴等に対する医療情報
健康状態を記載します。 例) ・アルツハイマー型認知症(平成30年発症) ・慢性心不全(平成30年発症) ・骨粗しょう症(不詳)	医療者等から聞き取った現病歴等に対する情報を記載します。

服薬状況

薬剤名	量	効能

家屋状況・改修の必要性等	エコマップ
家屋見取り図など、アセスメント項目の「居住環境」への記載内容を転記してください。	
居住する地域特性/つながり	
利用者の住んでいる地域特性、地域と利用者のつながり等を記載してください。 例) 閉鎖的な地域であり何代もそこで住んでいる方々も多く、地縁や血縁が強い地域でありMSさんも住民の方と親交がある。幼少期から知っている間柄である方も多い。医療機関は車で20分程の所に中核病院がある。往診可能な医療機関はない。スーパーも車で20分程の距離にあり、コンビニなどはない。	

支援経過

出会い ～	利用者状況(相談経路・当時の状況等)		ケアマネジャーとして考えたこと
	利用者との出会いまでの本人の背景・生活状況、出会った時の生活状況を記入してください。 例) 地域包括支援センター〇〇からの紹介で、脳出血による右麻痺を患ったAさん(女性)要介護3 を担当することとなる。家族は本人と長男の2人暮らしであり、長男には今まで介護の経験はなく、これからの介護について相談したいという状況であった。家事は長男が行うが調理経験に乏しく、かなりの負担になっていると話していた。長男は毎朝7時には出勤し、帰宅は20時とのことである。		利用者と出会った時のケアマネジャーの想いについて簡潔に記載してください。 例) 核家族世帯であり、長男様がほぼすべての介護を担う事になっている状況であり、介護経験や家事経験も乏しくどれくらいの介護ができるのか？また、長男様が仕事が忙しい為にどれだけ関わられるのか？介護に対する想いについてもきちんと確認する必要があると考えられた。
ケアマネジ メント開始 時	日にち	私たちが関わり、利用者・家族等はどうに変化していったのか？ 過去→現在の順に主要なものを記入	支援ポイント 自分が利用者・家族を支援したポイントを簡潔に書く
	4月10日	初回訪問。長男様も午前中仕事を休んで同席。平日は仕事で時には出張もある。また自治会の会計の仕事もあり大変である。介護についてまったくイメージがつかない。不安であるとのこと。ご本人は一人で大丈夫だと話す。	→初回訪問を行う。長男様の同席でアセスメントを行う。介護についての考え方や今後のAさんについて意向を伺う。
	4月16日	長男様は自宅で介護の意向あり、ご本人も家に居たいとのことである。介護は初めてだし、母親には世話になったので絶対に家で介護したい。	→これを受けていくつか方法について提案し、今回は週3回の通所介護の利用となる。家事は仕事前と帰宅後に行う、通院も介護者が休暇で対応するとのことになる。不安な事があれば連絡をするように助言した。
	8月20日	週3回の通所介護利用でAさんは楽しみができて、自分でできる事を増やしたいという意欲も見られ入浴に対する介護者の負担は軽減。しかし家事や通院が負担とのこと。でも家で私が見なければと長男は話す。	→訪問介護や通院介助についても提案をした。一生懸命に介護をするあまり、時々大きな声も出すこともあるとの話がきかれた。
	9月10日	Aさんは自分なりにやっているとのこと。通院は長男が休暇をとり行うが会社には介護の話はしていない。休暇も限界がある。家事については家に他人が入るのは抵抗がある。日中の様子も不安であり今後のことを考えると早期退職して介護することも考えていると話す。	→通院介助の利用も可能なことや、介護休暇等の方法が使えるかを確認するとよいことを提案した。また、親類等の援助についても確認した。
	10月15日	介護休暇等は未だ確認していない。家事のことや今後の介護を考えるとねえ・・・と長男は話した。	いろいろとあり、いないことはないが甘えられる身内はいないとのことであった。
現 在			

この事例全体を通して

ケアマネジメントの各プロセス時において気づいたこと(この類型によるもの)

- ・仕事をしながら介護をしている核家族を支えていくのは介護保険だけは限界がある。
- ・サービスを提案しても、それぞれの価値観により家の中に他の専門職が入る事に抵抗があると言われると支援への限界が感じられた。
- ・ご本人へのアセスメントは的確に行っていたと思うが、親類の把握や地域とのかかわりについては中々把握できなかった。

中々上手くいかなかった、苦労した事等助言をもらいたい事を簡潔に書いてください(2つ以内)

1. 家族の意向もあり訪問介護等の提案をしても受け入れてもらえない状態です。介護のために離職の話もあるがどのように支援を考えればよいか。
- 2.